

社会福祉施設連絡会 定例会

藤井寺市社会福祉施設連絡会が、8月9日(水)午後2時から、社会福祉法人しゅらの郷福祉会多機能型事業所あゆみ(津堂3丁目)で、会員23名が出席して開催された。



連絡会の冒頭に挨拶される奥田会長

奥田益弘会長は、冒頭の挨拶の中で、今年は民生委員制度の源と言われる済世顧問制度、方面委員制度の創設から100周年にあたり、7月9日には東京ビックサイト(東京都江東区有明)で、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、全国の民生委員・児童委員等多くの関係者が出席し、記念式典が開催されたことを報告された。また、全国社会福祉法人経営者協議会発行の【経営協情報No.20】の資料のもと、生活困窮者自立支援及び生活保護部会(座長・宮本太郎 中央大学法学部教授)が開催され、社会福祉法人の役割について、地域における公益的な取組みを踏まえ、社会福祉法人が生活困窮者の自立支援をより積極的に行なうために、どのようなことが必要か検討されている事を説明。昨年12月に大阪府福祉部子ども室家庭

支援課と大阪府女性相談センターからのDV被害者等の一時保護委託施設の拡充にかかる協力依頼を踏まえ、みささぎ会では4月から委託を受けているが、会員施設でも積極的に拡充に協力してほしいと依頼された。

◆研修会「福祉サービス施設組織論」についての報告

研修会の世話役であった賀光会伊藤昌弘氏から、分かりやすく、ためになったとの参加者からの声もあり、大変好評であったと報告された。

◆共同募金について

事務局前原由幸氏から前年度の募金活動について説明があった。その中で、募金箱設置施設の福祉分野が14施設であると報告があり、奥田会長からは、全



法人の歩みを説明される林理事長

◆地域福祉活動計画策定について

事務局前原氏から、藤井寺市社会福祉協議会が策定する第3期地域福祉活動計画(平成30年4月から)について、施設連絡会に対して地域福祉に関する調査に

ての法人が募金箱設置に協力しようとして述べられた。また、連絡会として、街頭募金は、11月上旬に実施することに全員賛同し、時間や場所については昨年の反省点をもとに検討することとなった。

◆とっとり委員会報告

大谷純平委員長から、4月から現在まで各施設で支援している事例の報告と、生活福祉資金を活用した生活保護対象外の方の支援についての報告などがあったことを報告された。

◆生活保護受給者の動向

最後に藤井寺市生活支援課松中義成チーフから、生活保護受給者の動向を、平成28年度は前年と比較して、世帯数、受給者数とも減少傾向にあり、生活保護受給者の就労活動は拡大していると報告された。

施設見学

社会福祉法人
しゅらの郷福祉会
多機能型事業所あゆみ
津堂3丁目286-5

すべては仲間(利用者)のために 仲間(利用者)は社会のために

施設見学の冒頭、しゅらの郷福祉会の林恵子理事長が法人の歩みを説明。

「藤井寺市心身障がい児(者)父母の会が母体となり設立され、他の福祉法人を頼らず、自らの団体で法人格を取得することを決意し、募金活動やチャリティコンサートのチケット販売など父母の会が一丸となって活動をしてきました。現在多機能型事業所あゆみ等6施設を運営しています。」と話された。続いて、「あゆみ」の前田裕施設長からは、障がい児・者が直面している課題として、利用者の高齢化や親子の生活が大変である事、障がいの多様化が進んでいる事をあげ、地域に働きかけ、ネットワークづくりを目指していきたいと述べられた。

施設見学では、軽作業や余暇活動を行なう生活介護事業(定員30名)と軽作業を通じて働く喜びや働く事の大切さを感じながら、工賃アップを目指していけるよう支援している就労継続支援B型事業(定員10名)の説明を受けた。

とっくり委員会報告

生活困窮者支援で活躍する会員の情報共有を目的にした「とっくり委員会」が、7月27日（木）午後2時から、約20名が参加して福祉会館で開催された。

大谷委員長から、会員施設が実施している事例報告を通じて、情報の共有を図り、連携して活動していかうとの提案があった。事例報告では、藤井寺特養の西矢隆史氏が4月からの支援事例を、特に無料低額宿泊事業に取り組み職員の体制につき説明された。また、地域で障がい者を抱える家族への支援について



7月27日 福祉会館

報告され、社会貢献支援員の下永田智子さんも、市生活支援課の協力を依頼された。

次に、賀光寮の野崎浩司氏が、保護施設通所事業を終了した利用者からの緊急相談事例につき説明され、どうみようと高殿苑の大谷氏から、市社会福祉協議会から依頼があり、道明寺地区での独居男性の困窮者支援の社会貢献基金を使った支援を説明。生活保護支給停止中の支援については、市生活支援課との情報共有の必要性も指摘された。

次に、市生活支援課の西村安彦氏が、自立相談支援事例書をもとに家族図やエコマップを使い説明され、参加者は具体的な支援方法の検討を行ない、社会資源を利用した支援方法を学ぶことが出来た。

事務局からは、「精神保健福祉ボランティア講座『統合失調症について』」（10月19日・市立福祉会館講座室）の受講案内があった。

「福祉サービス施設組織論」

藤井寺市福祉施設連絡会研修会が、経営コンサルタンの鈴記裕幸先生を講師に招き「福祉サービス施設組織論」のテーマで、7月11日（火）午後1時半から、藤井寺市立福祉会館2階講座室で、会員等45名が参加して開催された。



鈴記先生は、組織能力を高めるための施策として、組織が優秀な人材を擁することは大切だが、人材以上に大切なのは、その人材が持つ力を十分に発揮できるための組織づくりが必要であると述べられた。

「組織とは、特定の目的を達成するために、人々が集団を形成し、協力し合う機構」と定義し、組織能力を高めるためには、その器以上に、それに属している人々が協力し合い相互に働きかけをするために必要な行動や影響、能力などを密接に連携できるような組み合わせられた仕組みの部分が大切である。

組織を人間の集合体だと捉えたとき、組織が成果を発揮するためには、〈共通の目的〉〈協働への意思〉〈コミュニケーション〉という3つの要素が大切であり、この要素が円滑に働いていることにより、職員らが一本の軸にまとまって成果を発揮することが出来る。組織とは、「人の能力を存分に発揮させるための仕組みであり、場なのだ」と理解するのが適切であると、一般企業やプロスポーツの世界を例に説明された。

最後に、組織能力を高め、その結果として組織の競争優位性を高めるための組織づくりの要件を、「人材・キャリア開発」、「マネジメント開発」、「組織開発」という3つの視点から提言された。



7月11日 福祉会館

受講した施設の組織特性に適合した独自性のある具体的な方策を講じられることを願っていると述べられ、セミナーを締めくくられた。

とっくり委員会のご案内

日時 9月28日(木)
14時～15時30分
会場 福祉会館

定例会のご案内

日時 10月11日(水)
14時～15時30分
会場 福祉会館

今回の施設連絡会で、会長より、「我々施設連絡会会員は、行動部隊である。」
「今困っている人、今助けを必要としている人に、何時でも何処でも駆けつけなければならない。」との言葉があった。
各地で自然災害が発生している昨今、安心・安全な街づくりの為には必要な取り組みであると思う。